

遠征までの活動

東京～大阪間600km単独踏破合宿

隊員：CL・野口（1） 期間：1994年3月

単独での中国偵察を兼ねた旅行を終えた野口が、遠征の感覚を掴むため、実際砂漠を歩くのと同じくらいの距離を踏破した合宿。荷物軽減の為にテントを持たず、全行程本当の意味での野宿となった。食事に凝ったものを作るのが面倒で、結局朝はインスタントラーメン、昼食パン、晩インスタント焼きそばという片寄った食事ばかりしていたためか、足の裏が爛れ、その痛みを押さえるためにバファリンを齧りつつ歩いた。天候にも恵まれ、1日約50km進み2週間で踏破を終了する事ができた。

春季大峰縦走合宿

隊員：CL・田口（2）、野口（2）

期間：1994年5月

新たに隊員として迎えた田口とともに初めて行った合宿である。大峰山系を、吉野から南へ南へと峰沿いに縦走、山上ヶ岳、行者還岳、弥山、八経ヶ岳と経て天川村に降りる。当時雨が非常に少なかった為に水不足に苦労させられた。また、事前の情報では雪がかなり残っているということだったので、登山靴を履き、アイゼンを持っていったのだが、実際にはこれらの装備の出番は無く、いたずらに疲労しただけであった。田口とケンカしたのもこれが最初であった。

夏季鳥取砂丘～千里山踏破合宿

隊員：CL・野口（2）、田口（2）、香川（2）

期間：1994年7月～8月

この合宿から香川が参加。鳥取砂丘において砂上歩荷訓練、鳥取大学教授からの情報收拾を終えた後、歩いて大山まで行き、大山登山。その後大阪の千里山関西大学の誠之館まで踏破するという計画であったが、携帯用コンロの故障で大山登山を断念し、それにとまって3食をカロリーメイトに決定。夏の猛暑の中をそんな状態で朝から晩まで歩くということは自殺行為に近く、肉体的にも精神的にも極限状況に追いこまれてしまった。踏破開始から10日ほどの所で田口が巻き爪の悪化からリタイヤし、その翌日に野口が疲労骨折を起こしリタイヤ。最後まで頑張った香川も姫路近くで栄養失調でダウンした。ここで合宿は空中分解した。だが、この合宿で各個人の限界を知る事ができたのは、ある意味成功していた時よりも多くの事を学ぶことができたのではないか。この合宿はあながち失敗という言葉だけでは語れない思い入れがある。

秋季大山登山合宿

隊員：CL・田口（2）、香川（2）、本多（1）

期間：1994年11月

本多が遠征隊に入って最初の合宿。もともと夏季合宿で行けなかった大山に雪辱戦を挑むつもりで立てた合宿であったが、直前に野口が風邪をひき、3人で行くことになる。短期の合宿ではあったが、その内容は非常に濃いものであった。計画したコースが予想以上の物凄いブッシュであり、思ったように距離を進めず、結果として1日の行動時間が非常に長くなり、また、道に迷うことも多かった。この為、かなりの疲労を強いられる合宿であった。帰阪後、その恨みを晴らすかのように、野口のオゴリで中華料理を大量に食べた事は記憶に新しい。



二人きりの合宿だった
('94大峰)



地獄の踏破
('94鳥取～大阪)



険しい山道に行く
('94大山)

冬季琵琶湖一周踏破合宿

隊員：CL・野口（2）、田口（2）、香川（2）、本多（1）

期間：1994年12月

最初のオールメンバー合宿。かつて関西大学探検部タクラマカン砂漠タリム川航行隊のメンバーが行ったトレーニング合宿の逆回りルート。大津を出発して、国道沿いに雄琴、安曇川町と進み、琵琶湖最北部を迂回、そのまま国道8号線に出た後、近江八幡を通り再び大津に戻る。全行程約200km。天候にはあまり恵まれなかったが、何等アクシデントも無く、ほぼ計画通り踏破を完了することができた。

敦煌事前合宿

隊員：CL・野口（2）、田口（2）、香川（2）

期間：1995年2月

おりしも突発した関西大震災によって西宮居住の本多が合宿に参加できなかった、中国の事前調査・および敦煌の鳴沙山砂漠における砂上歩荷トレーニング合宿。鳴沙山の砂丘はいわゆるスタードゥーン（金字塔砂丘：実際の遠征ルート上には存在しない、高く、複雑な形をした砂丘のこと）で、非常に登りにくくかつ疲労し、一日に進める距離も微々たるものであった。「こんなんでも本当に遠征に行けるのか？」と肝を冷やすはめになったが、1週間近く砂漠において生活をしたという事により様々な経験を得て、それを生かして以後の計画を練ることが出来た。非常に大きな成果をもった合宿であった。

春季台高山脈縦走合宿

隊員：CL・野口（3）、田口（3）、香川（3）、本多（2）

期間：1995年5月

五月連休を利用して行った、山脈縦走トレーニング合宿。一部予想以上のブッシュのため何度か道に迷ったり、水が不足したりと、かなり問題の多い合宿であった。道が悪く、隊内に捻挫者が続出し、田口は捻挫があまりにひどい為途中で脱退。野口は軽度であったため完走した。しかしその無理が祟り、野口は今でもその場所がおかしく、捻挫しやすくなってしまった。

夏季最終調整合宿

隊員：CL・野口（3）、田口（3）、香川（3）、本多（2）、松原（OB）

期間：1995年7月

前後編2回に分けた遠征に向けての最終調整合宿。前編においては関西大学誠之館前において、基本的なセミナー、中国語学習、トレーニングなど規則正しい強化合宿を約1週間にわたって行い、後編においては南アルプスの山系を登山し体力トレーニングおよび、なんらかの「区切り」とした。計画通り非常にスムーズに行った合宿であった。

六甲登山トレーニング（毎週土日）

1995年度初頭より、毎週土日は六甲山に登山するトレーニング合宿を組んだ。宝塚で食糧とアルコールを補給した後、日の暮れて暗い中を六甲登山口近くの空地まで歩荷し、テントを設営する。そうしてしばし宴会の時を過ごし、翌朝山頂にむけて出発する。最初の頃はピッチを切りつつみんなで登ったのだが、コース自体が短い（コースタイムで3時間くらい）為、慣れてくると「山頂集合」にし、各自競争した。毎週の事もあり、これによってかなりの体力向上を計ることが出来た。



鳴沙山にて（'95敦煌）